



けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。
「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する
情報をお知らせします～



県北地方の春の恵み、お楽しみいただけ
ましたか？



栽培わらび(本宮市稲沢)

岳地域酪農研修会 & ランチミーティングを開催しました！

平成31年4月23日(火)、桜が満開のJAふくしま未来岳山麓出張所において、当所主催による「岳地域酪農研修会およびランチミーティング」を開催し、岳地区の酪農家の皆さんをはじめ、二本松市、JAふくしま未来、福島県酪農業協同組合の担当者や、農業総合センター畜産研究所の研究員など20名が出席しました。

研修会では、畜産研究所酪農科の鎌田泰之科長から乳牛の繁殖管理、乳房炎予防、および現在取り組んでいる試験の紹介など、基本技術から最新の情報まで広くお話しいただきました。

また、昼食を摂りながら行なわれたランチミーティングでは、酪農家の方から、研修会の内容を掘り下げた質問が出されたり、最近気になっている技術について、畜産研究所の研究員に尋ねたりするなど、研修会とは異なるリラックスした雰囲気での情報交換することができたのではないかと思います。

今後も継続して地区の酪農家の皆さんとの意見交換の場を設けていきたいと考えています。

(安達農業普及所)



畜産研究所酪農科 鎌田科長による研修会の様子



昼食を取りながら、意見交換

「緑の募金」街頭キャンペーンが行われました！

「その手から つながる未来 広がる緑」を緑化テーマとして、今年度の「緑の募金」活動が展開されています。

4月1日から5月31日までが春の募金運動推進期間となっており、4月20日(土)、福島駅東口広場を中心とした駅周辺において、福島市緑化推進委員会と公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会主催による街頭キャンペーンが開催され、福島市内の緑の少年団員等139名が参加しました。

開会式終了後、緑の少年団員たちは5箇所に分かれて募金活動を行い、募金された方に緑の羽根や花苗・花の種を配っていただきました。

ちなみに福島県内で昨年、約6,300万円もの募金が寄せられました。募金は植樹活動等の緑化推進や森林整備、緑の少年団の育成活動等に活用されています。

これからも緑豊かな郷土の緑化を進めるため、「緑の募金」への御協力をお願いします。

(森林林業部)



開会式には キビタン と ももりん も参加しました



駅前の各所で募金を行いました



多くの方に募金いただきました



令和元年度「田んぼの学校 開校式・田植え」を行いました！

令和元年5月8日（水）、今年度の「田んぼの学校」が開校し、実践モデル校の福島市立余目あまるめ小学校の5年生児童22名が田植えを行いました。

「田んぼの学校」は、農村地域の農地や自然環境を学びの場として活用し、「食・命の大切さ」を学ぶ食育、「農業・農村地域の大切さ」を学ぶ社会教育、「自然環境の大切さ」を学ぶ環境教育を総合的に実践する「農育」の取組です。

五月晴れの下、田んぼの学校長である栃窪三男氏の田んぼで、栃窪氏を始めとする地元の方々の協力により、無事2枚の田んぼにコシヒカリの苗を植えました。児童たちは裸足で田んぼに入り、泥の感触に「きゃー」「うわー」と歓声を上げたり、苗を手を持ち、「どう植えるんだろう？」等、初めのうちは悪戦苦闘していましたが徐々に慣れ、元気に田植えを楽しんでいました。

田植えに先立ち行われた開校式では、栃窪氏、平久井淳余目小学校長、芳見茂当事務所長が挨拶し、「動植物に命をいただいているということ」「環境を守ること」「米作りを支えている地元の人への感謝」を一年を通して学んでほしいとの話があり、児童たちは熱心に話を聞いていました。田植えを終えると児童からは「初めは田んぼの泥が苦手だったが、そのうち気にならなくなった。」「農家の人の大変さがわかった。これからはお米を大切に食べたい。」「収穫しておにぎりを食べるのが楽しみ」等の声が上がりました。また、栃窪氏からは「今は機械での田植えがほとんどだが、直接苗を手で植えることは子供たちにとって貴重な体験になったと思う」との講評をいただきました。

今後も生き物調査、稲刈り、収穫祭等を行うこととしており、みんなで植えたコシヒカリが元気に育ち、収穫祭で美味しくいただくのが今から待ち遠しいです。

（農村整備部）



田んぼの学校長挨拶



当事務所長挨拶



田植え開始



上手に田植えする児童たち

国見小学校の児童が学習田に「天のつぶ」を田植えました！

令和元年5月8日（水）、国見町立国見小学校学習田の田植えが行われ、5学年の児童69名が本県水稲オリジナル品種「天のつぶ」の苗を丁寧に手植えました。

学習田は、「地域を知る、農業への理解を深める」ために総合学習の一環として小学校が企画し、地元の大規模稲作経営体の小坂アグリ株式会社と国見町役場が運営に協力しています。当日は、JAふくしま未来国見営農センターと当所の職員も田植え指導を手伝いました。

児童は、小坂アグリの朽木勝之代表取締役から田んぼでの注意事項、苗の持ち方や植え方等の説明を受けた後、一列に並んで田植えをしました。最初は、裸足で田んぼに入るのに慣れずに戸惑う児童もいましたが、しばらくすると、全員が上手に苗を植えていきました。

田植え後、児童から田植え体験での喜びや驚きなどの感想発表があり、農業への関心が高まったようでした。最後に出席者を代表して朽木代表取締役から、「子どもたちには田植えや稲刈りを通して地域の農業や米作りをもっと知ってもらいたい」との話がありました。

秋には、学習田の稲刈り体験と収穫祭が予定されています。

（伊達農業普及所）



田植えの説明をする朽木代表取締役



田植えの様子



消費者田植えツアーin 大玉村！

令和元年5月18日(土)、大玉村大山にて、首都圏を中心に店舗を展開するスーパー「いなげや」の田植えツアーがJAふくしま未来の協賛で行われ、「いなげや」の利用者9家族、36名が参加しました。

大山公民館で行われた歓迎セレモニーでは菅野徳一郎JAふくしま未来安達地区担当常務理事と押山利一大玉村長から歓迎の挨拶がありました。

セレモニーの後、JAふくしま未来安達地区女性部により、地元産のコシヒカリで作ったおにぎりや、アスパラガスの天ぷらなどが振る舞われ、参加者は心のこもった料理を楽しんでいました。また、当所職員が、福島の米の魅力と安全安心の取組などを説明しました。

その後、ほ場へ移動し、参加者全員で横一列に並んで田植えを行いました。

田んぼに入った子供たちは、泥の感触を素肌で感じ歓声を上げ、慣れないながらも初めての田植え作業を楽しんでいました。同時に田植え機による作業体験も行われ、親御さんが子供達の写真を熱心に撮影していました。泥だらけになったツアー参加者でしたが、その後に向かう岳温泉や、翌日に予定されるアスパラガスの収穫体験に期待を膨らませている様子でした。

(安達農業普及所)



福島米の紹介



安達太良山をバックに田植えを楽しむ参加者



新規就農者激励会が開催されました！

令和元年5月9日（木）、A・O・Z多目的ホールにおいて福島市の「令和元年度新規就農者激励会」が開催され、新規就農者12名が出席しました。

今年度の福島市の新規就農者は27名で、年齢やこれまでの経歴、経営品目は幅広く多岐にわたります。出席者からは、就農理由や将来への決意が表明され、「農業短期大学校で学んだ農業技術を経営に活かしたい」、「農業にたずさわることによって今までの人生設計を見直したい」など様々な思いが述べられました。

また、来賓や先輩となる青年農業者からは新規就農者への激励があり、「仲間作りをしながらネットワークを広げ、将来の経営に役立てて欲しい」とのアドバイスがありました。

当部としましても、新規就農者の支援を行うとともに、今後も農業の魅力の発信や就農意欲向上のために様々な活動をとって新規就農促進に努めてまいります。

（農業振興普及部）



新規就農者と来賓による記念撮影



福島市農業後継者連絡協議会会長
（先輩農業者）からの熱いエール

きゅうりGAP品出荷出発式が開催されました！

令和元年5月23日（水）、伊達市保原町のJAふくしま未来保原集出荷所において、JGAP 団体認証を取得した農場で生産されたきゅうり（以下、きゅうりGAP品）の出荷出発式が開催されました。

当日は、県北農林事務所長をはじめとして、関係市町、市場関係者など約60名が参加し、来賓祝辞やテープカット等のセレモニーのあと、きゅうりGAP品を積んだトラックを大きな拍手で見送りました。

JAふくしま未来では、果樹や野菜、水稻の各品目でGAPの団体認証取得を推進しており、きゅうりでは21経営体が平成30年10月に認証を受けました。GAP認証により食の安全・安心への取組をPRし、いまだ取まらない風評被害の払拭や管内産きゅうりの有利販売につなげたいと関係者一丸となって進めています。

今年は、きゅうりGAP品を出荷開始時期から供給できる、「GAP元年」とも言うべき年です。そのため、出発式は、流通関係者や消費者にこの取組を知ってもらいたい、という関係者の思いが込められています。

JGAPに取り組んだ経営体からは、「GAPをやって良かった」、「食の安全について、さらに考えるきっかけができた」という声が聞かれました。

現在、さらに多くの経営体による認証取得の動きがあり、今後、GAPの取組の一層の発展が期待されます。

（伊達農業普及所）



テープカットを行う関係者



出発するトラック

その山菜、出荷して大丈夫ですか？

県北地方では、下記のとおり出荷制限指示が出されております！！

再度確認のうえ、**出荷制限品目を出荷・販売しないよう**、御協力願います。

令和元年5月24日現在

くさそてつ (ごごみ)	福島市 二本松市 伊達市 桑折町 国見町 川俣町 大玉村
たけのこ	福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村
ふきのとう (野生もののみ)	福島市 伊達市 本宮市 桑折町 国見町 川俣町
ぜんまい	二本松市 川俣町
ぜんまい (野生もののみ)	大玉村
たらのめ (野生もののみ)	福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 川俣町 大玉村
わらび	伊達市 川俣町
わらび (野生もののみ)	福島市 二本松市
こしあぶら	福島市 二本松市 伊達市 本宮市 桑折町 国見町 川俣町 大玉村
ふき (野生もののみ)	桑折町
うわばみそう (みず) (野生もののみ)	国見町

出荷が制限されている品目については、自主検査により「基準値（100Bq/kg）以下」であっても出荷や販売（無人販売所等への陳列含む）は行わないでください。また、飲食店や宿泊施設等での提供や加工用原材料としても使用しないでください。

なお、最新の情報は福島県ホームページなどで確認いただくか、当事務所にお問い合わせください。

◆ふくしま新発売。（農林水産物モニタリング情報）URL

<http://www.new-fukushima.jp/>

◆お問い合わせ先

福島県県北農林事務所 森林林業部林業課

電話 024-521-2632

FAX 024-521-2851

（森林林業部）



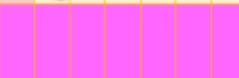
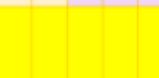
けんぼくの直売所紹介

くだもの季節到来！
フルーツラインで果物狩りはいかがですか？

県北地方はももをはじめとする様々なくだもの産地ですが、福島市西部、吾妻連峰の麓にはくだもの畑が広がります。「フルーツライン」や「ピーチライン」等の沿線には直売所やくだもの狩りができる観光果樹園が数多く並んでいます。

6月中旬頃からのサクランボに始まり、もも、なし、ぶどうなどが続々と登場します。旬の時期おいしい旬のくだものをぜひご堪能下さい！

福島市フルーツカレンダー

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
さくらんぼ							
もも							
ぶどう							
なし							
りんご							

※時期はおおよその目安です。天候等によって変動いたします。

詳しくは福島市の総合観光情報ナビ「こらんしょふくしま」をご覧ください。

URL : <https://www.f-kankou.jp/kudamono/>



編集・発行 福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

